

令和7年度  
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程用)

教科	技術・家庭(技術分野)	学年	3	年	時間数	35/2	時間
----	-------------	----	---	---	-----	------	----

教科書名	技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて	出版社名	開隆堂
------	--------------------------	------	-----

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一学期	4	(D 情報の技術)	①生活や社会を支える情報の技術		◎	○	<b>授業の概要</b> 「D 情報の技術」では、生活や社会を支える情報の技術について学習します。具体的には、ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツ(例えばチャットのような機能)のプログラミングや、センサーで計測した情報をもとにアクチュエータを制御するプログラミングを行います。また、情報モラルの必要性や情報セキュリティについての基礎知識も学習します。
		1-1 生活や社会と情報の技術	②身の回りにある情報の技術		◎	○	
		1-2 情報とコンピュータ	①コンピュータの構成 ②コンピュータの機能と装置 ③コンピュータを使って機器を自動で動かすしくみ	◎		○	
		5	中間考査(5/13~5/14)		◎	◎	
	6	1-3 情報の表現と伝達	④コンピュータによる処理のしくみ ⑤プログラムの構造と表現 ⑥情報のデジタル化 ⑦デジタル情報の特徴	◎		○	
			①使いやすさを工夫した情報の表現	◎		○	
			②メディアを利用した情報の表現	◎		○	
7	7	③情報通信ネットワークのしくみ ④Webのしくみと情報の表現	◎	◎	○		
夏季	8	夏季休業日(7/19~8/24)					
	二学期	9	1-4 情報セキュリティと情報モラル	①情報セキュリティ ②情報モラル ③知的財産の保護と活用	◎		○
10			2-1 双方向性のあるコンテンツによる問題解決	①問題解決の流れ(実習)	◎	◎	○
11			11	情報通信ネットワークを利用したアプリや計測・制御の技術によって解決できる問題を見いだして、必要な機能を持つコンテンツや計測・制御システムに関する課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして、課題を解決する力を身に付けているとともに、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築を目指して情報の技術を評価し、適切に選択・管理・運用、改良、応用する力を身に付けている。	◎	◎	○
12			12	①問題解決の流れ(実習)	◎	◎	○
冬季	12	12	①問題解決の流れ(実習)	◎	◎	○	
	三学期	1	2-2 計測・制御による問題解決	①問題解決の流れ(実習)	◎	◎	○
2			2	2	◎	◎	○
3			3	3	◎	◎	○
							<b>学習の到達目標</b> ・情報の技術の見方・考え方を働かせ、利便性や安全性を高める双方向性のあるコンテンツや身近な不便さを解消する計測・制御システムのプログラムを設計・制作する実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている情報の技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けることができる。 ・情報の技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるとともに、生活や社会の中から情報の技術に関わる問題を見いだして課題を設定し解決する力を身に付けることができる。 ・よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に情報の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付けることができる。
							<b>評価の観点</b> 知識・技能 生活や社会で利用されている情報の技術についての科学的な原理・法則や基礎的な技術の仕組み及び、情報モラルの必要性及び、情報の技術と安全な生活や社会、環境との関わりについて理解しているとともに、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる技能を身に付けている。
							<b>思考・判断・表現</b> 情報通信ネットワークを利用したアプリや計測・制御の技術によって解決できる問題を見いだして、必要な機能を持つコンテンツや計測・制御システムに関する課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして、課題を解決する力を身に付けているとともに、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築を目指して情報の技術を評価し、適切に選択・管理・運用、改良、応用する力を身に付けている。
							<b>主体的に学習に取り組む態度</b> よりよい生活の実現や持続可能な社会の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、情報の技術を工夫し創造しようとしている。
							<b>評価方法</b> 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「製作品」、「提出物(ノートやプリント)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
							<b>備考</b>
							①情報の技術の学習をふり返ろう ②情報の技術と私たちの未来

令和7年度  
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程用)

教科	技術・家庭(家庭分野)	学年	3	年	時間数	35/2	時間
----	-------------	----	---	---	-----	------	----

教科書名	技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生	出版社名	開隆堂
------	------------------------	------	-----

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一 学 期	4	C 消費生活・環境 4 持続可能な社会	ガイダンス		○		授 業 の 概 要  ガイダンスで、3年生で学ぶ内容について説明します。 購入の意思決定の方法や、契約の概念、販売方法・支払方法の特徴と契約解除の方法等の学習を振り返り、環境に配慮した消費生活行動について具体的に学びます。 幼児の発達と生活の特徴に関する学習を通して、家族の役割や幼児にととの遊びの意義、幼児との関わり方について考えていきます。
			1 消費行動が社会に与える影響		◎		
	5	中間考査(5/13~5/14)	2 消費行動が環境に与える影響		○	○	
			3 世界の国々と連携した持続可能な生活の創造へ		○	○	
			A 家族・家庭生活		○	○	
	6	2 幼児の生活と家族	1 幼児のころと今の自分		◎	○	
			2 幼児の体の発達		◎	○	
7	期末考査(6/25~7/1) 生活の課題と実践	生活の課題と実践・課題設定と計画		◎	○		
				◎	○		
				◎	○		
夏 季	8	夏季休業日(7/19~8/24)					
		生活の課題と実践	生活の課題と実践・報告会		◎	○	
二 学 期	9	3 幼児の心身の発達 4 発達にとってのおとなの役割		◎	○	評 価 の 観 点  知識・技能  生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	
				◎	○		
	10	5 遊びが必要なわけ 6 遊びを支える環境		◎	○	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現  生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
				◎	○		
	11	3 幼児とのかかわり	1 ふれあい体験の前に		○	◎	
			2 ドキドキワクワクふれ合い体験		○	◎	
12	期末考査(11/26~12/2)	3 ふれあい体験は幼児からの贈り物 4 子どもの成長と地域		◎	○		
				◎	○		
冬 季	12	冬季休業日(12/20~1/7)					
三 学 期	1	4 家庭生活と地域のかかわり	1 家庭生活と地域での活動 2 多様な人びとが暮らす地域		○	◎	評 価 方 法  学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「作品」、「提出物(ノートやプリント)」により評価します。各学期の成績は、上記の観点から評価し、5段階法でも評定します。学年末の成績は、各学期の総合評価とします。
			3 地域に暮らす高齢者		◎	○	
	2	4 高齢者とかかわり		◎	○		
			学年末考査(2/20~2/27)		◎	○	
	3	5 持続可能な家庭生活 まとめ	持続可能な家庭生活をめざして		◎	○	
3年間を振り返る				◎	○		



令和7年度  
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	家庭	科目	家庭基礎	学年	4年	類型	共通	単位数	2	単位
----	----	----	------	----	----	----	----	-----	---	----

教科書名	家庭基礎 自立・共生・創造	出版社名	東京書籍
------	---------------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等		
		単元	内容	知	思	主			
一 学 期	4	第1章 生涯を見通す	オリエンテーション				○	授業の概要 家庭基礎では、生活面での知識や技術を身に付けて「自立」、異なる世代の人々と「共生」する意識を持ち、自分らしい「生活」を創造していく力を養います。 また「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」を通して、家庭や地域の生活課題を主体的に解決できる力を養います。	
		1 人生を展望する	1 人は生涯を通して発達する	2 青年期の課題		◎			
		2 目標を持って生きる	1 人生は意思決定の連続	2 未来予想図を描く		○	◎		
		第2章 人生をつくる	1 「人生100年」時代を生きる				○		
	5	1 人生をつくる	2 自分のライフスタイルを選ぶ			◎			
		中間考査(5/13~5/16)				○			
	6	2 家族・家庭を見つめる	1 家族・家庭をどう捉えるか	2 家族と法律			◎		
		第3章 子どもと共に育つ	1 次世代の育成			○			
		1 命を育む	3 命の誕生	4 母体の健康管理		◎			
		2 子どもの育つ力を知る	1 身体の発達	2 心の発達			○		
	7	第4章 超高齢社会を共に生きる	1 高齢者の自立を支える			○			学習の到達目標 ・人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に身に付ける。 ・学習した知識や技術を活かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決することができる。 ・家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身に付ける。 ・ホームプロジェクトの実践により、知識や技術を自分の生活に活かし、さらに意思決定能力や問題解決能力を身に付ける。 ・学校家庭クラブ活動の実践を通して、家庭と社会との関わりについて理解し、共に生きる社会の一員としての自覚を持つことができる。
		期末考査(6/25~7/1)			◎				
3 これからの超高齢社会		2 高齢者と共に地域をつくる			◎	○			
ホームプロジェクトの計画		ホームプロジェクト計画			○	◎			
二 学 期	8	夏季休業日(7/19~8/24)							
		第6章 食生活をつくる	ホームプロジェクト発表		◎		○		
	9	1 食生活の課題について考える	1 青年期の食生活の課題	2 「食べる」とは			○		
		2 食事と栄養・食品	3 食生活の課題	4 食生活の変化		◎	○		
			1 栄養と栄養素	2 炭水化物	3 脂質	4 たんぱく質			
			5 無機質	6 ビタミン					
	10	中間考査5年(9/30~10/3)	1 食品の選択				◎		
		中間考査4・6年(10/7~10/10)	2 食品の保存と加工				○		
		5 調理の基礎	調理実習計画と準備(和食)				○		
			調理実習1			◎			
	11		調理実習計画と準備(洋食)				○		
			調理実習2			◎			
		調理実習計画と準備(中国料理)				○			
		調理実習3			◎				
12	期末考査(11/26~12/2)			◎		○			
	第7章 衣生活をつくる	1 高校生と衣生活	2 着るとは			○			
	1 被服の役割を考える	3 被服の保健衛生的機能	4 被服の社会的機能		◎				
	冬季休業日(12/20~1/7)								
三 学 期	1	第8章 住生活をつくる	1 住居の機能と変化				○	評価方法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに、「授業(実習)態度・取り組み方」、「定期考査」、「提出物(レポートやノート、作品)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
		1 住生活の変遷と住居の機能	3 住居の計画	4 誰もが住みやすい住居とまち		○	◎		
		2 安全で快適な住生活を目指して	1 住居の防災	2 健康な住生活		◎			
		第9章 経済生活を営む	1 情報収集・比較と意思決定			○			
	2	2 購入・支払いのルールと方法	1 購入と契約			◎			
		4 生涯の経済生活を見直す	2 家計をマネジメントする	3 家計資産をマネジメントする		○			
	3	学年末考査4・5年(2/20~2/27)				◎	○		
		第11章 これからの生活を想像する	1 生活設計をする				○		
		1 生活をデザインする	2 これからの社会を創造する			◎			
			人生すごろく			○			

令和7年度  
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	家庭	科目	保育基礎	学年	6年	類型	文科系	単位数	2	単位
----	----	----	------	----	----	----	-----	-----	---	----

教科書名	保育基礎	出版社名	実教出版
------	------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	知	思	主		
一 学 期	4	1章 子どもの保育	1 保育の意義	I 保育とは	○	◎	授業の概要 保育基礎では、「子どもの保育」、「子どもの発達」、「子どもの生活」、「子どもの文化」、「子どもの福祉」について学習します。教科書や資料プリントを用いて、乳幼児期が人間発達の基礎を培う時期であることを踏まえ、誕生から就学までの長期的視野をもち、実際に子どもと触れ合う学習活動を通して、子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得し、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と実践的な態度を身に付けます。また、保育技術検定を受検し、子どもと触れ合う技術を高めます。	
			2 保育の方法	I 保育者の役割 II 一人ひとりに合わせた指導	○	◎		
			3 保育の環境	I 家庭での保育	◎	○		
	5	中間考査(5/13~5/16)		II 幼児教育・保育の場	◎	○		
			2章 子どもの発達	I 発達と保育 II 発達の共通性と個別性	◎	○		
	6		1 子どもの発達の特性	II 身体的特徴 III 生理的特徴	◎	○		
			2 子どものからだの発達		◎	○		
7	期末考査(6/25~7/1)			◎	○	学習の到達目標 ・子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を身に付けることができる。 ・子どもの発達や子育てに関心を持ち、関わろうとする意欲や実際に関わることができる能力と実践的な態度を身に付けることができる。 ・乳幼児の生活の特徴と適切な養護の在り方、生活習慣の形成、生活環境の整備、健康管理と事故防止などについて学び、乳幼児の発育発達を促すための望ましい生活について理解することができる。 ・子どもの発達を促すための保育の必要性と意義を理解し、保育の目標に応じた基本的な保育技術を身に付けることができる。 ・児童福祉の理念や関係法規と制度について学び、近年の子育て支援の考え方や施策について理解することができる。		
		3 子どもの心の発達	I 社会・情緒的な発達 II 知的発達 III 言葉の発達	○	◎			
夏 季	8	夏季休業日(7/19~8/24)						
二 学 期	9	3章 子どもの生活	1 子どもの生活と養護	I 生活と養護 II 栄養と食事 III 衣生活	◎	○	評価の観点 知識・技能 子どもの発達の特性、生活と保育に関する知識を総合的に身に付けている。また保育に関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。	
			2 生活習慣の形成	I 子どもの生活習慣 II 基本的な生活習慣 III 社会的な生活習慣	○	◎		
			3 健康管理と事故防止	I 子どもの健康管理	○	◎		
	10	中間考査5年(9/30~10/3) 中間考査4・6年(10/7~10/10)		II 事故防止と応急措置	○	◎		
			4章 子どもの文化	I 子どもの文化 II 子どもの文化を支える場	○	◎		
	11		1 子どもの文化の意義と支える場	I 遊びと発達 II 遊びと表現活動 絵本の選び方	◎	○		思考・判断・表現 子どもの発達を踏まえ、現状について見直し、課題について解決を目指して思考を深め、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現する能力を身に付けている。
			2 子どもの遊びと表現活動		◎	○		
12	期末考査(11/26~12/2)			○	◎	主体的に学習に取り組む態度 子どもについて関心を持ち、意欲的に学習に取り組む、子どもの発達や子育て支援に主体的に取り組もうとするともに、実践的な態度を身に付けている。		
		折り紙、おもちゃづくり 幼児との交流		◎	○			
冬 季		冬季休業日(12/20~1/7)						
三 学 期	1	5章 子どもの福祉	1 子ども観	3 子育て支援	◎	○	評価方法 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに、「授業(実習)態度・取り組み方」、「提出物(レポートやノート、作品)」、「出席」、により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
			2 子どもの福祉		○	◎		
			学習のまとめ		○	◎		
2		家庭学習		○	◎			
				○	◎			
3						備考		



令和7年度  
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	家庭	科目	ファッション造形基礎	学年	6年	類型	文科系	単位数	2	単位
----	----	----	------------	----	----	----	-----	-----	---	----

教科書名	ファッション造形基礎	出版社名	実教出版
------	------------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	知	思	主		
一学期	4	1章 衣服の構成	1. 人のからだと衣服 2. 衣服制作のための人体計測 3. 体格の特徴 4. 既製服サイズ表示 5. 動作による人体寸法・形態の変化			○	授業の概要 ファッション造形基礎では、被服の構成を理解し、被服材料の種類や特徴など被服製作に関する知識と技術の習得を目指します。	
		1節 人体と衣服				◎		
		2節 立体構成衣服と平面構成衣服		1. 立体構成衣服 2. 平面構成衣服	○	◎		
		3章 洋服の製作			◎			○
	5	中間考査(5/13~5/16)		○				
		1節 製作の基礎	1. 洋服とは 2. 製作のための用具 実習①基礎縫いを利用した巾着袋の製作	◎		○		
	6		実習②巾着袋の装飾	◎		○		
期末考査(6/25~7/1)			○		◎	学習の到達目標		
7		3. 採寸 4. パターン(型紙)の種類と利用 5. 布地の性質と扱い方 6. 縫製の基礎	○			・被服の構成、被服材料の種類や特徴など被服製作に関する知識と技術を習得することができる。 ・ファッション造形の基礎的な能力と態度を身に付ける。		
			○	○				
夏季	8	夏季休業日(7/19~8/24)						
二学期	9	3節 着装	1. 洋服の着装 2. 着装の工夫-コーディネート- 実習③洋服の製作(ブラウス・シャツの製作)	○		◎	評価の観点 知識・技能 衣服の構成・材料、製作の理論・技術について理解し、衣服を創造的に製作するために必要な知識を身に付けている。 製作題材を踏まえた技法を用い、計画に従って能率的に衣服の製作を行うことができる技能を身に付けている。	
		2節 製作例		◎		○		
	中間考査5年(9/30~10/3)		◎		○			
	中間考査4・6年(10/7~10/10)		◎		○			
	10	4章 和服の製作	1. 和服とは 2. 和服の素材 3. 製作のための用具と基本的な技法			○		思考・判断・表現 衣服のデザインや材料の選択に関し、個人の創意・工夫を表現することができる。また、製作過程や作品の着用において、必要に応じて個人の創意・工夫を生かし表現することができる。
		1節 製作の基礎		○		○		
	11	2節 製作例	2. 簡単な和服の製作	◎		○		
期末考査(11/26~12/2)			○			主体的に学習に取り組む態度		
12	3節 着装	1. 和服の着装 2. 和服の種類と用途	○		○	衣服のデザインや材料の選択に関し、個人の創意・工夫を表現することができる。また、製作過程や作品の着用において、必要に応じて個人の創意・工夫を生かし表現することができる。		
	冬季休業日(12/20~1/7)							
三学期	1	2章 衣服の素材	1. 繊維 2. 糸 3. 布 4. 衣服素材の加工 5. これからの衣服素材 1. 衣服素材の性能 2. 衣服素材の選択 家庭学習	○		○	評価方法 学習の状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業(実習)態度・取り組み方」、「提出物(レポートやノート)」、「作品」により評価します。また学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
		1節 衣服素材の種類		○		○		
	2節 衣服素材の性能と選択	○		○				
2			○		○	備考		
			○		○			
3			○		○			

令和7年度  
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	家庭	科目	フードデザイン	学年	6年	類型	文科系	単位数	2	単位
----	----	----	---------	----	----	----	-----	-----	---	----

教科書名	フードデザイン	出版社名	実教出版
------	---------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一学期	4	第1章 食生活と健康	1節 食の意義と役割			○	<b>授業の概要</b> フードデザインでは、「健康と食生活」、「フードデザインの構成要素」、「フードデザイン実習」、「食育と食育推進活動」について学習します。教科書や資料プリントを用いて、栄養、食品、献立、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得することができるように、授業や実習を進めます。
		第4章 調理の基本	2節 食をとりまく現状	○	◎		
			1節 調理とおいしさ	○		○	
			2節 調理操作	◎		○	
	5	中間考査(5/13~5/16)	3節 調味操作	◎		○	
		第3章 食品の特徴・表示・安全	1節 食品の特徴と性質	◎		○	
	「調理実習」		◎				
2節 食品の生産と流通	○			◎			
6	期末考査(6/25~7/1)	「調理実習」	◎				
		3節 食品の選択と表示	○				
		4節 食品の衛生と安全 「調理実習」	◎		◎		
夏季	8	夏季休業日(7/19~8/24)					
		第5章 料理様式とテーブルコーディネート	1節 料理様式と献立	◎	○		
「調理実習」	◎		○				
2節 テーブルコーディネート				◎			
二学期	9	第2章 栄養素のはたらきと食事計画	「調理実習」	◎	○		
			1節 栄養素のはたらき	◎			
			「調理実習」	◎	○		
	10	中間考査5年(9/30~10/3)	2節 ライフステージと栄養	○	○	○	
		中間考査4・6年(10/7~10/10)	「調理実習」	◎	○		
	11	第7章 食育	3節 食事摂取基準と食事計画	○	○	○	
			「調理実習」	◎	○		
1節 食育の意義と推進活動			○	◎	◎		
12	「調理実習」	◎	○				
	期末考査(11/26~12/2)	正月料理	◎				
冬季	1	「調理実習」	◎	○			
		2節 献立作成 1 日常食の献立を考える際の留意点 2 日常食の献立作成	◎	○			
三学期	1	第6章 フードデザイン実習	「調理実習」	◎	○		
			3 供応食・行事食	○		○	
			学習のまとめ	○		○	
	2	家庭学習		○		○	
				○		○	
3			○		○		
							<b>評価方法</b> 学習の状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業(実習)態度・取り組み方」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。
							<b>備考</b>